

【原告ワヨミの意見陳述 2025年6月4日】

先日、被告が、重要な証人となるはずの人たちについて、法廷で尋問を受ける必要がないと主張する書面を提出したと聞きました。

たとえば、姉が血をたくさん吐き、食べたものも飲んだものも吐き、動けなくなって「点滴」「病院」と求めたときに、姉のいちばんそばにいた看守職員がどのような対応をしたのか、法廷できちんとお話していただく必要があると思います。適切な医療と点滴を求める、命乞いのような姉の願いを聞いた看守や、看守の上司たちが、いったいどのように姉の願いを扱い、結局、全く意味のないものにしてしまったのでしょうか。また、血圧や脈拍が測れないほど、危ないと子どもにでも分かる危険な状態になってさえ姉を病院に運ばなかったのは何故でしょうか。他にも疑問は幾らでもあります。答えていただかなければなりません。

姉の尿検査の結果を知りながら、食べても飲んで吐いてしまう姉に対して「吐いてもいいから食べて飲みなさい、（吐いても）全部は出ない、ちょっとは、胃に残るから栄養になる」と、理解に苦しむ言葉を掛けていた看護師の尋問も、何故いらないのでしょうか。亡くなる前日の姉が、看護師に身体をいろいろ触られて痛がって苦

しい声を上げているのを「痛いっていうのが分かるからいい」と言い、笑い声をあげていた看護師が、姉の状態と必要な医療をどのように捉えて何をしていたのか、きちんと教えていただきたいです。

当時の名古屋入管局長は、人間を6か月半収容して死なせてしまった最高責任者です。何故、姉を死なせないために初歩的な医療を手配できなかったのか、基本的な医療を姉たちに提供する仕組みを作ることさえできなかったのか、法廷で説明していただきたいです。他の方々についても言いたいことはたくさんありますが、295時間分のビデオのうち殆どを見せない今の状態で、証人尋問さえ数人に聞いて終わりにしたい被告の姿勢が、私には理解できません。

そして、もう一度、ビデオ全部の開示を決して諦めることのない遺族の強い気持ちを申し上げさせてください。姉の真相解明のためにはもちろんですが、ウィシュマが苦しんで命を終えるまでの日々に、そばにいてあげられなかった私たち家族は、せめて映像を映す画面の向こうのその時間に、心だけでも入って行って、姉を抱きしめて一緒に泣きたい、これがウィシュマの家族全員の考えです。どうぞ、御理解下さい。ビデオが全部出ないことで、家族は今日も苦しんでいます。